

令和4年産 仙南稲作情報（第3号）

令和4年7月4日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

○生育は回復傾向

○まもなく追肥（穂肥）の時期です。

— 幼穂長と葉色を見て、適期・適量の追肥をしましょう！ —

1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～6月30日）

- 6月は、前半に降水量が多く、低温傾向で15日ごろ梅雨入りしたとみられます。後半になると高温の日が多く、日照時間も多くなっています。さらに、6月下旬は真夏日も多く、仙台管区気象台からは「6月27日ごろに梅雨明けしたとみられる」との発表もありました。

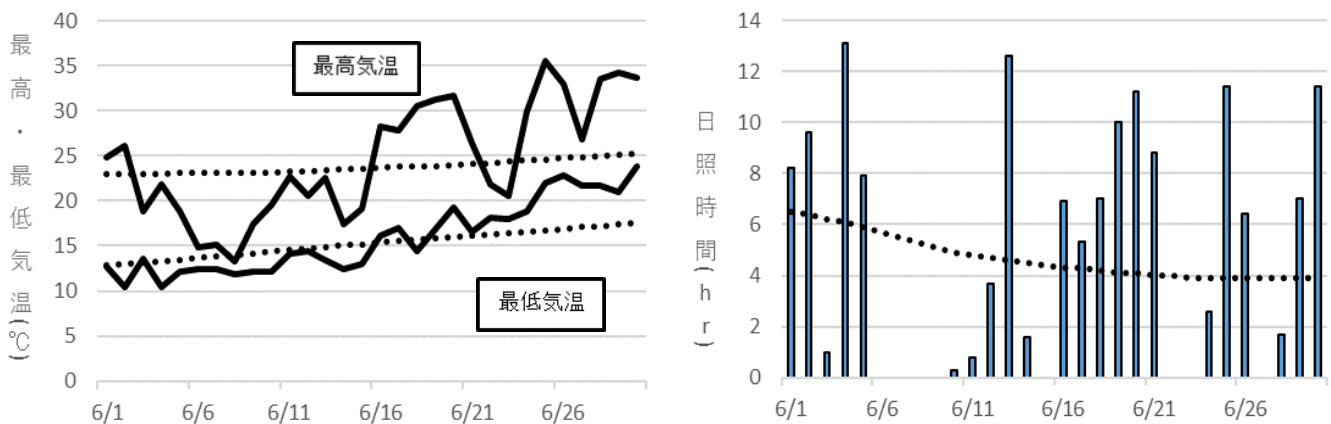


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～6月30日）

※仙台管区気象台（7/1発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方は特に前半は高温傾向で日照時間は平年並みから多い予報です。

2 管内の生育状況

(1)【7月1日調査結果】（7月1日実施）

生育は回復傾向。草丈は概ね平年並み、茎数はやや少なめ、葉数はやや少なめ、葉色は濃い、幼穂は1mm未満

- 南部平坦の「ひとめぼれ」は、草丈は平年並、葉数もほぼ平年並となっており、有効茎数は概ね確保されてきています。
- 今回の調査では幼穂長1mm以上は確認されませんでした。7月上旬～中旬に幼穂形成期に達すると考えられます。
- 南部平坦の「つや姫」は、角田市の「つや姫」は茎数が少なめですが、村田町の「つや姫」は有効茎数を確保しており、まもなく有効茎数が確保されてくるとみられます。
- 西部丘陵の「ひとめぼれ」は、葉数はほぼ平年並で、しだいに有効茎数が確保されるとみ

られます。

- 山間高冷の「やまのしずく」は、葉数が昨年よりもやや遅れていますが、莖数が昨年よりもやや多く、概ね有効莖数を確保されているとみられます。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

表1 管内の生育調査結果（7月1日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			莖数			葉数			葉色		
				本年	前年	(cm)	前年比	前年比	(本/m ²)	前年比	前年比	(枚)	前年差	前年差	(GM)	前年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/18	5/14	56.0	109	104	328	65	70	10.6	▲ 0.2	0.4	44.3	3.3	3.6
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/7	5/8	58.0	103	91	715	99	121	10.7	0.1	▲ 0.3	44.7	3.3	4.2
南部平坦「ひとめぼれ」平均				5/12	5/11	57.0	106	97	521	82	95	10.7	▲ 0.0	0.0	44.5	3.3	3.9
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	44.2	86	84	286	56	53	8.2	▲ 1.5	▲ 1.4	44.8	0.5	0.6
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/4	55.8	102	102	454	99	98	10.1	▲ 0.5	0.0	48.1	8.3	9.1
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/13	5/15	44.1	101	82	235	72	57	9.6	▲ 0.2	▲ 1.1	39.9	▲ 1.0	0.2
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/22	41.7	104	91	436	125	108	8.2	▲ 0.4	▲ 1.1	42.9	▲ 2.5	▲ 2.8

◆ 平年値は前5か年(H28～R2)の平均値

※ 角田市「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査3年目のため過去2年の平均値を平年値とした。

(2) だて正夢について

- 南部平坦では、草丈は昨年よりやや短く、葉数は昨年並み。莖数は昨年よりやや少なめですが、概ね目標莖数に達してきたものとみられ、中干しを開始する時期となっています。幼穂は未だ確認されていません（1mm未満）。
- 西部丘陵展示ほ場では、葉数が少なめで、初期分げつの発生が緩慢だったため、莖数が少ない状況です。生育状況を確認しながら、中干しを実施しましょう。

表2 だて正夢の生育調査結果（7月1日）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		莖数		葉数		葉色	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/4	63.7	92	386	88	10.8	0.1	43.8	3.6
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/21	5/19	48.1	91	287	68	8.5	▲ 0.4	46.0	2.1

3 今後の管理

【水管理】

□ 中干し

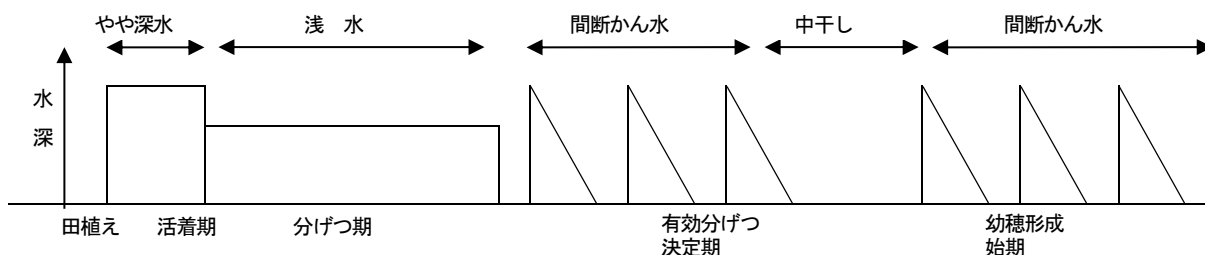
- 今年は、6月後半から好天が続いていることにより、有害なガスによる障害が懸念されるため、適期の中干しを心掛けましょう。
- 西部丘陵以上の山間高冷地や「コシヒカリ」等の晩生品種を作付けしているなど、生育ステージの遅いほ場では、生育状況を確認し目標莖数を確保したら、有害ガスの除去による根の活力向上、土壌物理性の改善のため、中干しを行いましょう。

- 中干しは、田面に小さな亀裂が入り、足跡が付く程度の固さまでとし、遅くとも幼穂形成期までには終わるようにしましょう。

□ 中干し終了後の水管理

- 急に湛水状態を続けると土壌の還元が進み、酸素不足になり根を傷めやすくなります。
- 中干し終了直後は、走り水程度（2日程度で落水する程度）とし、落水したら2日程度乾かしてから、かん水し、徐々に間断かん水に移行しましょう。

※水管理のイメージ図

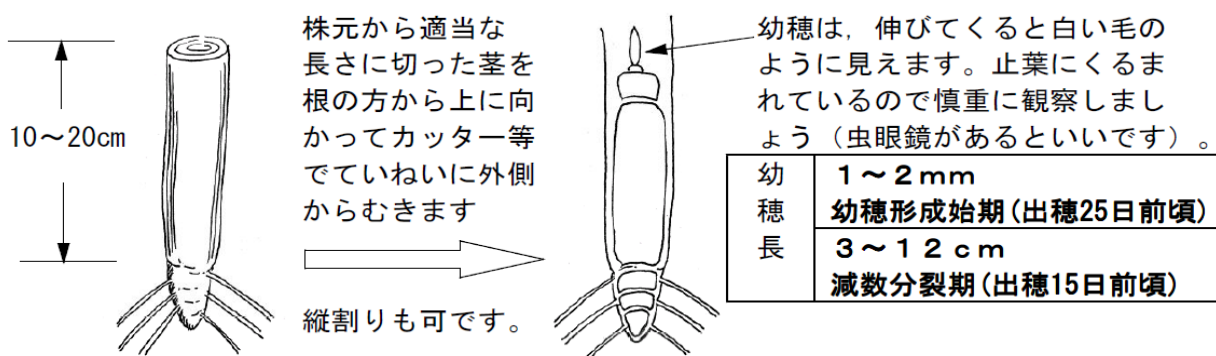


【追肥】

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- 追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」と「減数分裂期」に行います。
- 幼穂形成期の追肥は、穂数と1穂粒数の増加に有効です。
しかし、窒素供給が過剰だと、下位節間を伸長させ倒伏の要因になったり、粒数過剰となり登熟不良を招きます。
- 減数分裂期の追肥は、登熟初期の栄養改善により初期登熟を向上させます。

□ 幼穂長の調べ方について ※ 1ほ場で5～10本程度、調べます。






□ 追肥をするか、しないかの判断について

- 葉色を測定して、葉色が目安の範囲内か、小さければ、追肥可能です！
- 葉色：「葉緑素計（SPAD-502）」を用いますが、比較的安価に入手できる「葉色板（カラスケール）」（富士平工業の7段階表示のもの）を使うこともできます。

表4 穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

表5 葉色版（単葉）と葉緑素計の関係

葉色版(単葉)	4.5		5.0				5.5		6.0				6.5		
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
※幼穂形成期における施肥判断の目安															
ひとめぼれ   つや姫・まなむすめ 															

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」は、「ひとめぼれ」と比べて葉色が濃い特性があり、2ポイント程度高いのが適正です。
- ・追肥は、初期登熟を向上させるため、減数分裂期に窒素成分で2kg/10a 施用が基本です。
- ・有効茎数（目標 350~400 本/m²）の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10a ずつ施用してください。
- ・生育ステージにおける生育量、葉色等は以下の表を参考にしてください。

表6 「だて正夢」の生育ステージにおける生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色 (SPAD 値)	40~42	37~39
葉色板 (単葉)	5.5~6.0	5.0

※「だて正夢」栽培暦より
(収量 540kg/10a)

【 病 害 虫 防 除 】

① 葉いもち

- ・発生時期（発生開始期）は「平年並」（7月上旬前半）、発生量は「やや少ない」となっています（6月24日 病害虫防除所発表）。
- ・箱処理剤の効果が弱まってきています。また、7月上旬は高温傾向と予報されていますが、水田をこまめに見回り、いもち病の早期発見、早期防除に努めましょう！

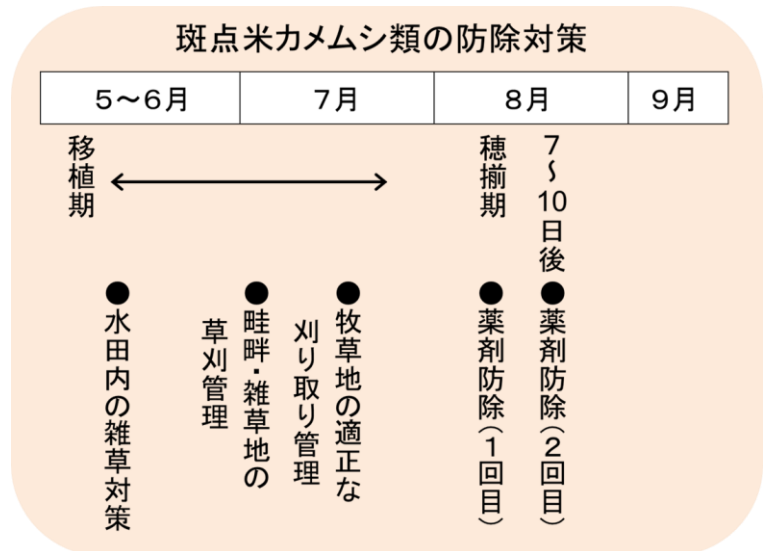
② 斑点米カメムシ類

- ・発生時期（第1世代成虫発生盛期）は「平年並」（7月中旬後半）、発生量は「やや少」となっています（6月24日 病害虫防除所発表）。
- ・ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息していますので、水田内の雑草防除を行いましょう。
- ・水田周辺の雑草地、農道、畦畔などの草刈りは、出穂10日前まで（7月中旬頃まで）に終わるようにしましょう。



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ



- ❑ 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。
- ❑ 農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。

4 直播栽培における管理のポイント

【7月1日調査結果】

- ・湛水直播栽培の生育について、草丈は前年より短く、莖数は前年よりも少ない。6月前半までの低温、少照により初期生育が緩慢だったことが影響し、葉数も少ない状況ですが、葉色は濃く、6月後半の好天により生育は回復してきています。有効莖数を確保したら、中干しを行いましょう。

表7 生育調査結果（7月1日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/m ²)		草丈		莖数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/11	69.3	59.4	36.8	83	244	46	7.5	▲ 1.6	45.2	4.8

①水管理

- ・目標穂数（ひとめぼれ：450本/m²）の80%程度を確保したら、溝きり・中干しを実施しましょう。

(畝間30cmで1mあたり「120本」だと「400本」になります。)

- 中干しの程度は、移植栽培の時よりも強めに、田面に亀裂が入る程度に行います。ただし、いもち病予防剤を施用する場合は、少なくとも3日程度は湛水状態を保った後、中干しを行います。
- 中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じですので、原則として間断かん水とします。

②雑草防除

- 直播栽培は、移植栽培に比べ雑草害を受けやすいので、防除時期を逸しないよう適期防除を心掛けましょう。
- 直播栽培として登録のあるものしか使用できないので注意しましょう。

③病害虫防除

【葉いもち】

- 水田をこまめに見回り、発生が見られた場合にはただちに防除に努めましょう。
- 一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展するケースが多いので、初発の確認が遅れないようしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- 成虫は7月中旬から、葉色の濃いほ場を中心に産卵を始めます。
- 直播栽培では、この時期の葉色は濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害に遭いやすくなります。
- 被害に気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくありますので、発生予察情報や現場の発生状況をもとに、「8月上旬頃」の「若齢幼虫の発生最盛期」に防除しましょう。

○令和3年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農産物を届けるため、農薬の使用に当たっては最新の登録情報を確認し、適正に使用しましょう。

最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。

(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html)